



行政区

風呂は熊本市内 と言います。お 間駐車場を借りて2戸のプレハブを置 の日の仮設トイ 冷房は付いていましたが、夏の暑さと雨 き、4か月間過ごしました。プレハブに レには苦労した していた近野さん。地震の後、近くの民 以前は、夫や長男家族総勢了人で暮ら

てくれました。 自由な思いもしましたが、「今では懐か の銭湯に家族風呂を借りて入るなど、不 しい思い出になりました」と笑顔で話し

うです。 ませんでしたが、次男の連れ合いのつて すぐにでも自宅を建てたいと思ったそ したが、同じころ自宅の解体が終了し、 昨年8月に木山仮設団地に入居しま 福岡にある工務店に来てもらえるこ 建築業者がなかなか見つかり 毎日遠くから通ってきてくれ

男家族と入居しましたが、持病が悪化し 今年の7月に新居が完成し、8月に長

新しい自宅を建てた後の近野さんの

友人や元の職場の人たちと食

います。 念です」と近野さんは言 てあげられないことが残 月に他界されました。 見届けることなく昨年12 たご主人は自宅の再建を 「新築したこの家を見せ

「38坪の自宅は本震で全壊しました。

震災前にはほとんどの家が二階建て

38坪です。 の広さは以前の家と同じ 義援金を充てました。家 預貯金や生活再建支援金 家を建てる資金には、

で決めていきました。家族全員が一体 めましたが、自分の部屋のつくりは自分 「間取りなどはほとんど長男夫婦が決

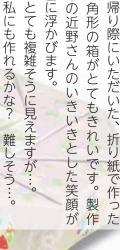
事に行ったり、木山仮設団地の集会所で

「住み慣れたこの場所に 帰ってくることができて嬉し

となって建てた家です.

うなど大変なことが続きましたが、今の みしめるように話しました。 ことができて嬉しく思っています」と噛 れど、住み慣れたこの場所に帰ってくる ます。仮設住宅の生活も楽しかったけ 方たちも皆さん、自宅の再建をされてい に住むことがとても幸せです。 近所の 私が担っています。長男の家族と一緒 族が仕事に出ているため、家事の全般を 暮らしについて近野さんは、「日中は家 大きな災害に見舞われ、愛する人を失

> 中の近野さんのいきいきとした笑顔が 8角形の箱がとてもきれいです。製作 目に浮かびます。 くる良い機会です。 朝のラジオ体操や花植えなど、友人をつ 譲ってあげ、とても喜ばれています。 作品は、ボランティアや知り合いにも 習った折り紙細工を楽しむことです。 加してほしい」と近野さんは言います。 きるだけ集会所で行われる行事には参 た、1日1時間歩くのも日課です。 帰り際にいただいた、折り紙で作った とても複雑そうに見えますが・・ 自身の体験を通し、仮設団地では「で





広報ましき 2018.01